

始

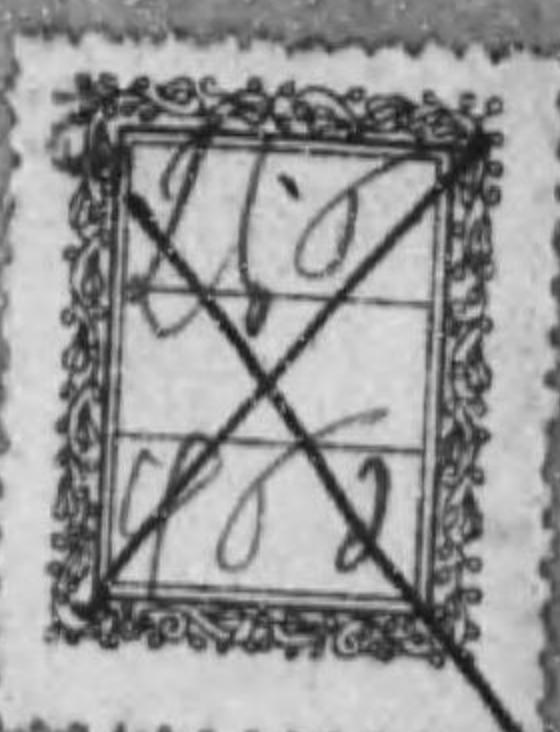


9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

特113

889

俊
寬



物 113
889

俊
寛

寛

内之部卷之十ノ二

季

所	附	束	裝	寛	別	俊	シテ	ツレ	同	ワキ	アキ
目番	四	種別	島	ケ	界	鬼					
月	正	充									
	5.4.7										
		内交									

俊寛一

解説

俊寛二

始めワキと狂言と出で、ワキは舞臺に入り謡ふ。

ワ一 教表『是は相國に仕へ申す者にて候』此處ハツキリ謡ふべし。名宣済みて狂言と懸合あり、終つて幕へ引く。

ツレ教表裏『神をいはふが島なれば』此處少し納めて謡ふ。以下サシ、連吟とも心得方同断也。

ツレ教表人裏『眞砂をとりて散米に』此處にて二人共正面へ出で、下に居、合掌、直ぐ立ち一人とも地の前へ行き、謡一杯に角かけて下に居る。

シテ、一枚表裏『後の世を待たて鬼界が島守と』此處納めて謡ふべし。

シ三一枚表裏『俊寛が身の上に知られて候』此處にて舞臺に入り、常座に立つ。ツレ二人はシテの謡の中立ち、此處にてシテの方へ進み『いかにあれ成は俊寛にて渡り候か』とシテへかゝり謡ふ。以下懸合宜しくありて、

シテ『飲むからに實にも薬と菊水の』初同は軽くつけて謡ふ、打切にてツレ二人は元の庭に行きシテへ向き下に居る。

シテ『我も千年を経る心地する』にてシテ中へ出で、水桶置き、下に居、ツレへ向く。

同『春過ぎ夏たけて又』此處にて三人共正へ直す。此後シテの形、謡とも種々口傳ありて大事の所なり。

初六教表『今こそ限りなりけれ』此後一聲になりて、狂言、作物船持ち出で、橋懸へ置く。

ワ同『はや舟の、心に叶ふ追手にて』夫より後ワキ出で、船へ業り謡ふ。

ワ同『船より下り、舞臺に入り、いかに此島に流され人の……』此處かゝつてハツキリ謡ふべし。狂言との懸合済み、ワキをシテへ渡す。シテ、文を受け取り、『あら有難や候』と謡ひ、『やがて康頼御覽候へ』へと文を康頼に渡す。康頼文を開き見、

シ七教表裏『何々中宮御産の御祈りの爲に』とハツキリ謡ふ。

シ七教表裏『何とて俊寛をば読み落し給ふぞ』此詞はツレへかゝり謡ふ。

シ七教表裏『御名はあらばこそ』と康頼は文をシテへ渡す、シテ文を見て『扱は筆者の誤りか』

シ七教表裏『こはいかに罪も同じ罪』此處かゝつて謡ふべし。

此後シテに形種々あり、謡にも變化、緩急甚だ多けれどもすべて重き口傳に屬す。

清

信 宽

見文の相國より仕へゆる者多くは御を

洪度中宮御産の御祈乃たもふ

詔文の御行りとあづり國代

縫人赦免が御中より思思々鴻

乃ゆくのうち、母波のむかひ經

平判官入道本願ニシテ教免乃成
使をばづきかへ承つてりる。たゞ今
鬼界の鴉ハナタマとよきのヨク神ミツまわすよ
う鴉サギさきばサキバ頗ハナタマもみほのひ
やゑヤエ是ハシメすや九別クモリのまゝ零
界ハタケが鴉サギの流ハラフり乃ハナタマともハナタマ丹波タハラ乃

かね本經タカヒコよ判官の道本願タカヒコト
人ハナタマ黒ハタマてぬあらハタマ我ハタマおがふえ
時ハタマ熊ハタマまよはなハタマ三十度ハタマのよきを
あくハタマとくちハタマをハタマふき半ハタマよ
おたハタマくハタマがくハタマおまハタマめハタマせハタマおハタマあれ
前ハタマ前ハタマもハタマ早ハタマあらぬハタマ青ハタマて

あさみがまほとたまむれ
乃ぬ衣ふがまがまくかをうて教ま
るまゆまゆのみよみて
にあゆみゆみ
はゆせとまゆて男界う鴻字と
あらわゆくの晴まゆゆむ

めのゆくや。ゆゆと籠
を勧請申し都よりれ道中乃
が十たかのままで。喜く
順礼乃む跡ゆめもよ様ぞく
ま。宴ゆめわあ。官居と。篠野
乃。浦ゆくゆくやまとある。

通す。がまきよ、キヨ、空て眼
雲母のせ。今朝あさる。またふ翁の
枝葉。ねばぶを抱く。鳴く。て
頭を回ら。後實アフタシマツリ。うさぎ
うれしは。つまある。あは後
えつて。うとうと。ハ行め爲

あはう。うとうと。まくも。おは
け。まくた。通せ。かわ。あう。つ
酒。まお。くま。たう。まく。酒
まく。竹。禁。の。せ。め。うち。まく。ま
か。まち。まく。いた。が。そり。水。まく。
まく。まく。まく。おゆ。まく。

まくらをまみの水あきば寝ゆ
あくちよみづてヨリ立て日よひと
ヨリあは長月時ハ重陽
所さ山路水乃長が祖う
さるそめをすまもろとほり
一深谷がまきにまくらを

アミー
草木と草木の根が根の底も白
さぬ乃清くほくとひのれに草れ
やうがまよがまよちと跡すゆち
まくらが面とあわせひはとおせ
アモト原地
さく草すよのうれすもくじゆ

まくらのきのうやくは、ちよこ
つきて、^{ト黒}かくすにばば勝
ますは、^ヤかくすを身を拂のまわる
かくすに、^トうとうと、五、^トまわ城
色のねあきや。つむぎは乃葉の
さづま、^ト浦、^ト水のあざく

まくらのうやくは、ちよこ
おおきは、^トかくすを身を拂のまわる
かくすに、^トうとうと、五、^トまわ城
えり、^ト浦、^ト水のあざく
まくらのうやくは、ちよこ
かくすに、^トうとうと、五、^トまわ城

まきくほせんく
まきくはや根
せぬあねほせんく
あふく
伊宮御在の事乃為事
れた教行がよすやう國
教免あけす黒里うづ鳴乃
ゆくのうれいのむかの成る事

判官八道安頼二人教免あ
ぬあり行とく信實をよ
おもねようほくわいあくば
く教免はの面をあらへ
ぬは筆者れ浮くりや某教
さくのあれか本源アラモト

申す。候實一ノをば汝鷦シテ上鷯スズメあ
す。自らの事シテす。うてハめす。
罪ミタテもおあざれむ。す。同シテがる
程シテがく。同シテお敵シテあくに。お
れあく。とく。宿シテ果シテあくす
ひめ。候實シテ一ノをば汝シテ鷦シテ上鷯スズメあ

候シテ一ノをば汝シテ鷦シテ上鷯スズメあ
ト。おまき。候シテ一ノをば汝シテ鷦シテ上鷯スズメあ
て。浦シテあ。おまき。て。おまき。おほ。の。く。
乃。よ。も。あ。く。て。あ。おまき。し。わ。り
満シテま。や。前シテく。よ。う。そ。で。おまき。の。経シテ待シテ
ま。く。さ。う。お。ま。お。ま。お。ま。時シテを

感トテハシモ深トマキム
恨ムハ鳥モ心モアカカリム
ヨリモ此鴻ス雲界ニ遊鶴也
あれ観ムアシテレジトヨリ
冥途ナシタリシノモノトモ
ナシト云アドウ知ルナシ
九

感トテハシモ深トマキム
恨ムハ鳥モ心モアカカリム
ヨリモ此鴻ス雲界ニ遊鶴也
あれ観ムアシテレジトヨリ
冥途ナシタリシノモノトモ
ナシト云アドウ知ルナシ
九

某種寫本と云ふ其の如きあり也
且つ、墨紙よりやうんと毫もく
文字の更正がこひゆうる
おもとまわらばあめよ
かき文字の更正がこひゆうる
つあるを縦實ざる有様をみる

書あられ引時刻ううそか
ますま。成程写類にんぎや
がふむづきひをとよかくて
ある事あねどぞそれ承きと
う於くごんがくみにまことく
傳教がみたれとあすけ

「キセ」

前まへづきば第リ傳都へゆけよ
まへとづかあくまへいひまへ
着アシタカたゞやあわがやまのわづ
すまくのあきが貴てハ向ひの
ばはきまつ情よのまへたび及
甲 情を知ぬ母まゝ櫛櫛まゝ上

一、一、一、一、一、一、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、

「アシタカ」

一、一、一、一、一、一、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、
一、一、一、一、一、一、一、一、

「アシタカ」

りとおもはきば勇力あまび候
空えをすみ乃は者よもきぬく
がる御上^{ヨウジョウ}に^{シテ}下^{シテ}
まね御上^{ヨウジョウ}に^{シテ}下^{シテ}
あくとをもわまはすか
やう痛りがほ事や^{ヤハ}都^ツより
あはよゆやうゆあはよゆ

頃^{ヒタチ}の間^{マツコト}はあくびしほひづくは
あく^{ヒテ上}りゆ^{ヒテ下}治^{マサニ}をまくとゆよ
るをも強^{カタ}あ^{カタ}頼^{マサニ}をまくは
あるがはまてゆの^{ヒテ下}治^{マサニ}や
ゆあはよゆあはよゆ



着住權所

大正五年四月

四日印刷
九日發行

東京市深川區西平野町一番地

著作者 寶生九

東京市日本橋區通四丁目八番地

發行者 江島伊兵

東京市日本橋區通四丁目八番地

發行所 榎屋謡曲書肆

東京市神田區皆川町二番地

印刷者 田村茂太郎



海賊がさへよや
見ゆる處をもす
けりて
朝もよおれ
とひの毛をす
はなば
つ良の戀あらじ色
ての音も人影も消え
ふきりぬきてかくびゆる

終

